

10/07 - 10/13

大阪ヘルスケアパビリオン
「リボンチャレンジ」



「まだ世の中にない」
製品づくりを発案から
試作・製造までサポート

発明・プロダクトデザイン・試作製作を包括したサービスを提供

ディフロンティア株式会社は、デザイン思考・アート思考で、世の中に存在しない装置・機器をゼロベースで発明し、その研究試作を受託しています。研究試作に必要なプロトタイプ製作については、機械・電子制御・ソフトウェアといった全ての要素を、森田義一社長一人で包括して設計・製作できることが同社の強みであり、決定・試行のサイクルに介入する無駄な人手がかからないため費用や期間で優位性があります。また、発明・発案したアイデアは依頼企業に譲渡するので、依頼企業が特許を保有することができます。（法律上、発明者の同社の連名は必要）

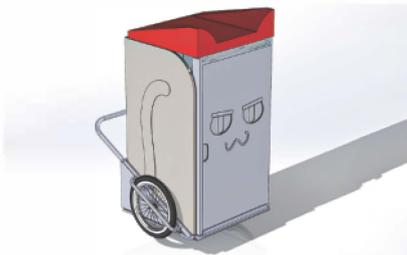


開発事例：次世代の発電技術を探究

ユニバーサルトイレに変身する防災ロッカーを発案・試作

大阪・関西万博では、「防災ロッカー製作委員会with J」の一員として、通常は防災ロッカーとして公園などに設置されているものが、非常時にユニバーサルトイレやユニバーサルルームとして機能するものに変形させる設備を出展します。

同製作委員会を構成している企業や組織が印刷会社をはじめ、女子短期大学、金属加工会社、プラスチック製品メーカーなど多岐にわたるなか、同社はデザイン・設計のほか、完成までの街角ヒアリングやそれによるブラッシュアップなど、工程全体のコーディネイト役も果たしています。



万博展示物イメージ：猫のキャラクターがデザインされた「防災ロッカー」

「汚い」「臭い」「怖い」を解消し、誰にでも使いやすいトイレに

非常時用トイレ設備はこれまでもありますが、今回最初から主眼に置かれたのは、「車いすの方が簡単に利用できる」全く新しいコンセプトの便座です。既存の非常時用トイレの狭いスペースで車いすを回転させることは容易ではなく、今回出展するユニバーサルトイレは、車いすを前後に動かすだけで使用できる設計になっています。

また、被災地で、トイレに対する不満としてよく耳にする「汚い」「臭い」「怖い」を解消し、老人や子ども、女性に使いやすい簡易トイレです。このデザインや設計にあたっては、委員会の一員である女子短期大学の学生たちの声や、街角で実施した一般の方たちの声も反映しました。

さらに、外観に猫のキャラクターをデザインして、平常時からその存在に注目してもらうことで、防災意識を高めることを狙っています。



開発事例：車の走りを楽しみたいという下肢障がい者向けMT車クラッチ操作補助装置

企業概要

所在地 〒593-8329
堺市西区下田町27-2
TEL 072-220-2613
設立年 2009年
資本金 100万円
従業員 1名

公式サイト

さかしる



とんがったモノづくりで、日本の製造業に再び活力を



代表取締役

森田 義一 さん

大阪・関西万博の開催決定前から「万博というお祭りには、ぜひ参加したい」という思いを持っていました。そして、万博に出展するならば、とんがったものを出したいと考えました。日本がモノづくり大国と呼ばれたのも今は昔になりつつあるなか、これからは海外製品より高価格になっても「やっぱり日本製だね」と言われる特色あるモノづくりをするべきで、それを実践できる大阪の中小企業やベンチャー企業はたくさんあります。今回をきっかけに知り合った活力ある企業と、万博の閉幕後も大阪を盛り上げる一角を担いたいと思っています。

事業内容

ソフトウェア開発、電子機器設計
開発、機械装置類設計開発、ODM
(相手先ブランドによるデザイン受託)

主な取引先（納入先）

メーカー、商社

主な製品・サービス等

アクティブクラッチ